

牧野博士の龍舌菜は和名は同一だつたが植物そのものが異なつてゐたのである。故に中井博士の學名の檢定は正しいのである。

筆者は龍舌菜の名稱を牧野博士の *Lactuca dracoglossa* MAKINO に残し *Lactuca Scariola* L. var. *integrata* GRENIER & GORDON にはマルバチンヤなる新和名を與へたい。尙 *Lactuca dracoglossa* MAKINO は上記の如く臺灣には古くより栽培され且つ其の附近に生ずる *Lactuca indica* L. アキノノゲシとは殆んど區別されない切葉で無絞のものが出て来る。この中間型のものを *Lactuca dracoglossa* × *L. indica* と考へられるが、私はどうも今でも *Lactuca dracoglossa* MAKINO は *Lactuca indica* L. var. *dracoglossa* (MAKINO) KITAMURA とした方が良い様に考へてゐる。

終りにのぞみ筆者は昨年東大で勉強させて頂いた節特に中井先生は自由に標品を見せて下さつて且つ御私有にかゝる貴重なる圖書を拜覽させて下さり尙種々菊科につき御教示下さつた事を深く感謝する次第である。

抄 録

川崎繁太郎, 今野圓藏: — 朝鮮平安系の植物 I. II. III. (1927-1934), 古生代の植物化石 (1933).

日本群島では中生植物代の三疊紀最上部より以前の植物化石はないが、朝鮮半島では古生植物代中石炭紀最上部と二疊紀の植物化石がわかつてゐる。

朝鮮では寒武利亞紀から奥陶紀に至る海成の整合累層なる朝鮮系の上に平行不整合を以てはじまる平安系と云ふ累層がある、平安系は上部石炭より三疊紀に至るまで整合せる大部分陸成の地層である。

平安系は岩質と化石とから四の統に分けられてゐる、最下部は紅店統と云ひ、石炭紀最上部のものであるが化石は少くて *Lepidodendron oculus-feris*, *Neuropteris* sp. の二が発見されたのみである。紅店統の上は寺洞統と云ひ下部二疊紀のもので澤山の化石を産する、其上は高坊山統と云ひ上部二疊紀のもので化石を産し、最上部は太子院赭色岩統又は綠色岩統で三疊紀のものであるが化石はない。

寺洞統には 115 種、高坊山統には 63 種の化石が発見されたが、兩統に共通のものは唯三種である、之れ高坊山統の下部 320 米突の地層が無化石で此に大なる時間の間隔があるからである。

寺洞統の Flora: — 寺洞統は二疊紀下部にして當時の北半球二疊石炭紀植物要素

June, 1934.

119

と稱せらるゝ分子を含む事が中々多い、即ち *Lepidodendron*, *Sigillaria*, *Stigmaria*, *Annularia*, *Calamitis*, *Sphenophyllum*, *Asterotheca*, *Pecopteris*, *Callipteris*, *Callipteridium*, *Neuropteris*, *Odontopteris*, *Sphenopteris*, *Cordaites*, *Walchia* 等で、其中には下部二疊紀の示準化石か又は其以後に産しない *Sphenophyllum Thonii*, *Callipteris conferta*, *Ulmannia frumentaria*, *Walchia* sp. があるので寺洞統を下部二疊紀と見るのである。そうすると朝鮮下部二疊紀には *Lepidodendron* sp, *Stigmaria ficoides*, *Stigmaria rugosa*, *Calamites cistii*, *Neuropteris auriculata*, *Cordaites principalis* の如き歐米の下部二疊紀には最早産しないものが残つてゐる事になる、それに此時代東亞の特有屬である *Tingia*, *Lobatannularia*, や *Emplectopteris*, *Emplectopteridium*, *Pecopteridium* 等の *Callipteridaceae*, 及び *Cardioglossum antiquum* KOIDZ. (= *Gigantopteris antiqua* KAWAS. & KONNO.) があり、又中生植物代のものとしては *Uladophylebis*, *Pterophyllum* がある。之で見ると東亞の下部二疊紀の植物群は到底歐米の同期植物群に比較にならぬ豊富なものであつて、東亞二疊紀の氣候は歐米よりは末ずつと良好であつたやうである。

高坊山統の Flora: — 本時代に入ると最早二疊石炭紀の最も著甚なる植物 *Lepidophyta*, *Cordaites* や *Calamites* は全く其跡を絶ちしは著しき事なれども尙二疊石炭紀要素の残遺するもの中々多く當時東亞特有屬としては *Tingia*, *Lobatannularia*, *Shirakia*, *Gigantopteris*, *Cathaysiopteris Whitei* KOIDZ (= *Gigantopteris Whitei* HALLE) があり、中生代のものとしては *Ctenopteris*, *Chiropteris*, *Elatocladus* があり、又最後に注目すべきは南半球二疊石炭紀要素たる *Rhipidopsis*, *Schizoneura*, を混する事である。

それで今野圓藏氏は高坊山統を上部二疊紀と断定されしが、そうすると眞の *Gigantopteris* Flora なるものは東亞中生植物代の初期を云ふもので、従て古生代末の *Cathaysia* Flora の代稱でなくなる。

古生代末の *Cathaysia* Flora の特有要素は *Tingia*, *Lobatannularia*, *Cardioglossum* KOIDZ. n. gen. *Callipteridaceae* 等となり、従て *Lobatannularia* flora とか何とか云ふべき事になる。(G. KOIDZUMI.)

會 報

三 月 例 會

三月十一日午後一時より京都帝國大學理學部植物學教室に開催す。